

受検番号	氏名

平成22年度

神奈川県立中等教育学校入学者決定検査

適性検査Ⅱ

(45分)

——— 注 意 ———

- 1 「はじめ」の合図があるまで、この検査用紙を開いてはいけません。
- 2 問題は問3まであり、1ページから6ページに印刷されています。
- 3 問題をよく読んで、答えはすべて解答用紙の決められた欄に書きましょう。
- 4 「やめ」の合図があったら、とちゅうでも書くのをやめ、筆記用具を机の上に置きましょう。

問1 たけしさんたちは、調理実習のために、地元の神奈川県で生産されている農産物を使った献立^{こんだて}を考え、農産物の値段^{ねだん}や特色を調べています。次の(1)～(3)の各問いに答えましょう。

(1) たけしさんたちは、商店のちらしを見ながら、みかんの値段について話し合っています。次の〔資料1〕は、A店、B店のちらしの一部を示したものです。あとの〔会話文〕を読んで、ア、イの各問いに答えましょう。ただし、たけしさん、あきこさん、かずおさんが求めた代金に、計算による誤^{あやま}りはないものとします。

〔資料1〕

A店のちらし	B店のちらし
神奈川県産 みかん 1袋5個入り 220円 本日から190円になります。	神奈川県産 みかん 1袋5個入り 220円 <u>6袋以上買うと、</u> <u>1袋につき50円を値引きします。</u>

〔会話文〕

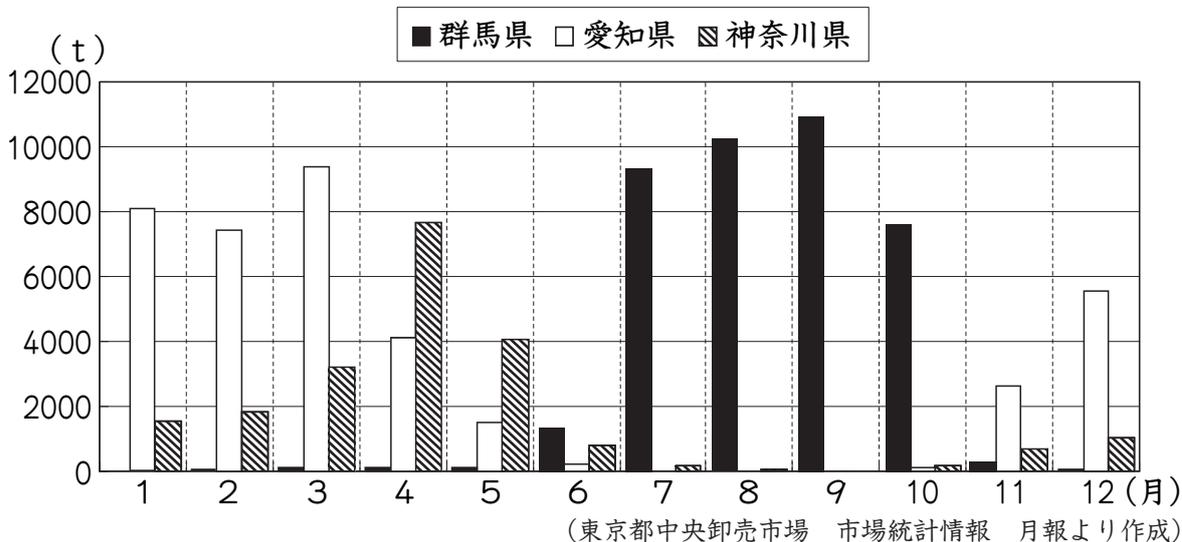
たけしさん	「学級で必要なみかんは全部で40個だから、A店で買うと、代金は1520円になるね。」
あきこさん	「それならば、A店よりB店で買った方が安いと思うわ。わたしの計算では、B店でみかん40個を買うと、代金は1360円になるわよ。」
かずおさん	「えっ、どうして。ぼくの計算だと、B店でみかん40個を買うと、代金は1610円になるよ。」
さやかさん	「あきこさんとかずおさんとは、B店のちらしの読み取り方がちがっているわ。B店に確かめてみましょう。」

ア あきこさんは、B店のちらしをどのように読み取ったのでしょうか。みかん40個分の代金について、あきこさんがB店のちらしの情報から、どのように考えて計算をし、代金まで導いたのかを式で書きましょう。ただし、すべての式を答えまで書きましょう。

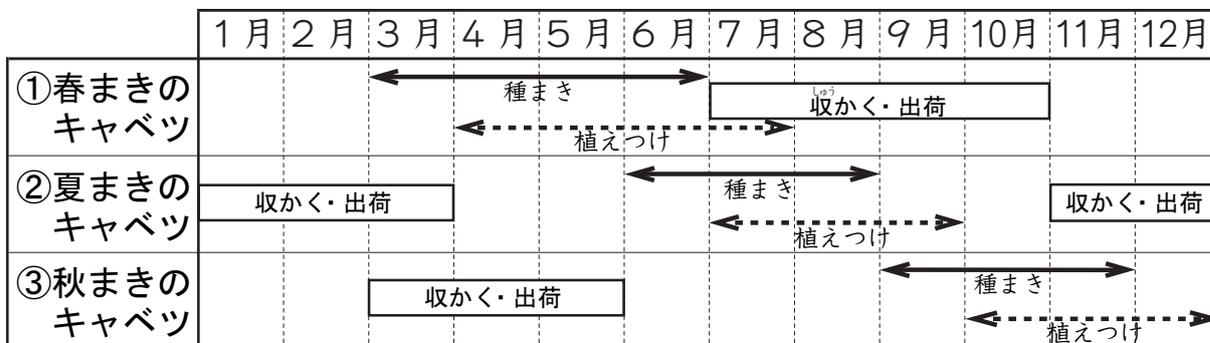
イ B店に確かめたところ、かずおさんのちらしの読み取り方が正しいということがわかりました。B店のちらしの下線部について、B店の伝えたい内容が正しく伝わるように文を直しましょう。ただし、答えは「6袋以上買うと、」という書き出しを用いて1文で書きましょう。

(2) たけしさんたちは、東京都中央卸売市場おしうりにおけるキャベツの産地別取りあつかい量を調べました。次の〔資料2〕は、取りあつかい量の多い上位2県ぐんま あいち（群馬県、愛知県）と神奈川県かながわの月別取りあつかい量を示したグラフです。また、〔資料3〕は、全国で生産されている主なキャベツについて、種まきから出荷までの時期を示したものです。

〔資料2〕キャベツの産地別取りあつかい量（平成19年）



〔資料3〕主なキャベツの種まきから出荷までの時期



〔資料2〕をもとに、神奈川県から東京都中央卸売市場にもっとも多く出荷されているキャベツを〔資料3〕の①～③の中から1つ選び、その番号を書きましょう。また、神奈川県のキャベツの生産者にとって、そのキャベツを生産することが出荷時期の面からみてよい点を、〔資料2〕から読み取り、書きましょう。

(3) 地元で生産されている農産物を地元で消費することは、輸送おんだんかきよりが短くなることで地球温暖化の防止につながります。どのように地球温暖化の防止につながるのかを説明しましょう。ただし、答えは「輸送きよりが短くなることで、」に続けて書きましょう。

問2

かずおさんの学級では、神奈川県ぶんだんの歴史について分担して調べ、「神奈川県歴史カルタ」をつくることになりました。次の〔資料1〕、〔資料2〕は、かずおさんが調べた内容、〔資料3〕は、それをもとにしてかずおさんがつくったカルタです。あとの(1)～(3)の各問いに答えましょう。

〔資料1〕「北条早雲」について調べた内容

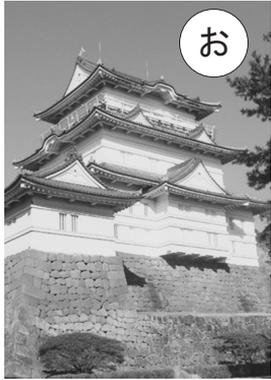
戦国時代、北条早雲は、駿河するが（今の静岡県）の今川氏いながわをたよって京都きょうとからくだり、伊豆いず（今の静岡県）の韮山にらやまで勢力を強めました。やがて早雲は、小田原おだわらの大森氏おおもりをたおし、さらに三浦半島みうらの三浦氏をほろぼし、わずか20年で伊豆と相模さがみ（今の神奈川県）の国を支配しました。そののち北条早雲の一族は、戦国大名として小田原を中心に大きく勢力をのばしました。

〔資料2〕「黒船の来航」について調べた内容

アメリカ合衆国がっしゅうこくの使節、ペリーの率いる4せきの黒船注1)が、三浦半島うらがの浦賀うらがのおきにあられ、人々をおどろかせました。日本は、当時、外国との行き来を制限していました。ペリーは、江戸幕府えどばくふに強く開国をせまり、幕府は、次の年に再び来航したペリーと横浜よこはまで日米和親条約を結びました。

注1) 黒船：蒸気船じょうきせんをふくむ軍艦ぐんかん。その船の色から「黒船」と呼ばれた。

〔資料3〕

取り札	読み札	取り札	読み札
 <p style="text-align: center;">お</p>	<p>ほうじょうそううん せんごくだいまようになつた</p> <p style="text-align: center;">お</p> <p>だわらをしいし</p>	 <p style="text-align: center;">く</p>	<p>かいこくをせまるペリー</p> <p>うらがにらいこう</p> <p style="text-align: center;">く</p> <p>ろふねで</p>
（〔資料1〕をもとにつくったカルタ）		（〔資料2〕をもとにつくったカルタ）	

(1) かずおさんは、次の〔資料4〕の取り札をつくり、読み札の内容を考えています。〔資料3〕を参考に、次の□の中の注意を読み、「源頼朝」が歴史上で成しとげたことを示して、読み札の内容を書きましょう。

〔資料4〕

取り札



（「源頼朝」と伝えられている像）

- 「か」で始まるカルタをつくります。
- 読み札は、^{おさな}幼い子どもでも読めるように、漢字は使いません。
- 人物の名前を「みなもとのよりとも」と必ず入れ、その人物とかかわりのある神奈川県内の地名を入れます。

(2) かずおさんは、〔資料2〕を調べているときに、次の〔資料5〕を見つけました。〔資料5〕は、当時の様子をよんだといわれている歌で、「五・七・五・七・七」の音で、世の中のことをおもしろおかしくよんだものであることがわかりました。この歌は2つの意味を表していますが、下線部が表している2つの意味を書きましょう。

〔資料5〕

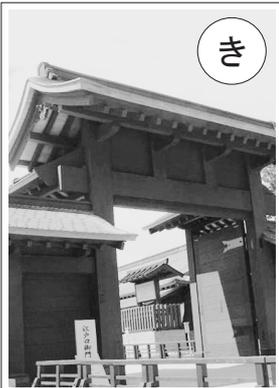
^{たいへい}注2) 泰平の ねむりをさます ^{じょうきせん}注3) じょうきせん
 たった四はいで 夜もねられず

注2) 泰平：世の中がおだやかなこと。 注3) じょうきせん（上喜撰）：当時、よく知られていたお茶の名前。

(3) かずおさんは、右の〔資料6〕のカルタもつくりました。そして、自分がつくったカルタを使って、『神奈川県ならの武士の世の中の移り変わり』という題で、調べた内容を年代の古い順に発表することにしました。発表する順に「お」、「か」、「き」、「く」のカルタを並べ、そのひらがなを順に書きましょう。

〔資料6〕

取り札



読み札

せきしよをつくる

き

びしいぞ

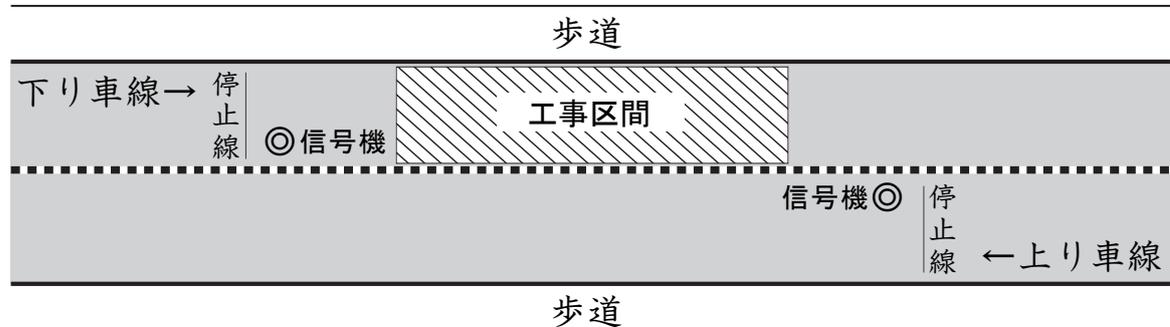
えどばくふがはこねに

問3 次の文章を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

あきこさんの学校の近くには、長い直線の道路があります。その一部の区間で道路工事が始まり、いつもは、上り1車線、下り1車線の合計2車線ある道路が、1車線しか通行できなくなりました。そのため、ここを通る自動車は、〔資料1〕のように、工事区間の両側に、臨時につけられた「青」と「赤」の2色が点灯する信号機により、交ごに通行しています。

あきこさんが通学する、朝と夕方には、信号待ちの自動車の長い列ができ、交通じゅうたいが起こっていました。そこで、あきこさんは、じゅうたいの様子について、友だちといっしょに調べてみることにしました。

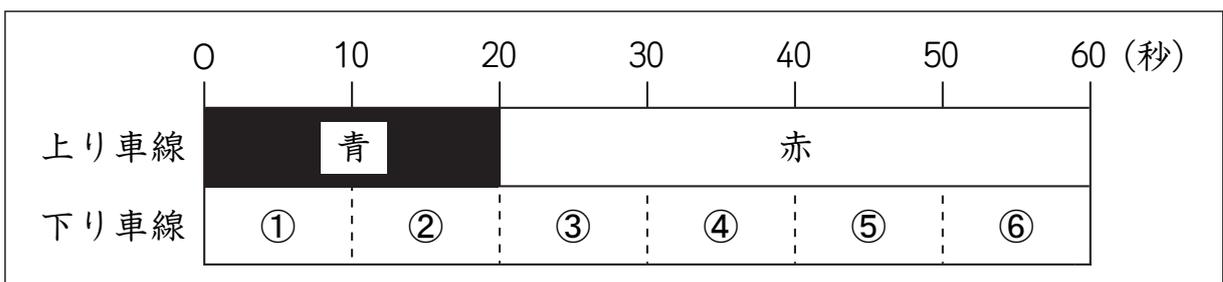
〔資料1〕 道路工事の様子



(1) 上り車線と下り車線、それぞれの信号機の「青」と「赤」が点灯している時間を調べたところ、どちらの信号機も「青」が20秒間、「赤」が40秒間で、交ごに連続して点灯していました。

上り車線の信号機の「青」と「赤」が、次の〔資料2〕のようにかわるとき、どちらの車線の自動車も等しく安全に通行できるようにするために、下り車線の信号機の「青」と「赤」を、どのように点灯させるとよいでしょうか。「青」が点灯している時間を〔資料2〕の①～⑥の中からすべて選び、その番号を書きましょう。

〔資料2〕



(2) 次の〔資料3〕は、あきこさんたちが調べた内容を示したものです。あとのア、イの各問いに答えましょう。

〔資料3〕

○ 朝8時ちょうど、上り車線の信号機が「青」にかわったときにじゅうたいしていた自動車の台数は、上り車線が24台、下り車線が20台でした。

○ 新たにじゅうたいの列に加わった自動車の台数について

時間	上り車線	下り車線
8:00～8:10	64台	62台
8:10～8:20	66台	58台
8:20～8:30	58台	52台
8:30～8:40	68台	56台
8:40～8:50	40台	62台
8:50～9:00	62台	58台

○ じゅうたいしているとき、信号機が「青」20秒と「赤」40秒とかわる1分間に、工事区間を通過した自動車の台数は、上り車線、下り車線ともに平均6台でした。

ア 〔資料3〕から、上り車線、下り車線それぞれ、8時から9時まで、10分ごとの自動車のじゅうたいの列の台数を求めて、折れ線グラフで表しましょう。ただし、上り車線は——(実線)、下り車線は----(点線)でかきましょう。

※10分間に通過する自動車の台数は、上り車線、下り車線ともに1分間に6台が通過するものとして求めましょう。

イ あきこさんは、〔資料3〕をもとに、信号機の「青」と「赤」の点灯時間によって、自動車のじゅうたいの列の台数がどのように変化するかを予測することにしました。

どちらの車線の自動車も等しく安全に通行できるようにして、信号機の「青」と「赤」の点灯時間を「青」50秒、「赤」70秒とした場合、10分ごとの自動車のじゅうたいの列の台数はどのように変化するかを予測しましょう。予測の結果を次の①～③の中から1つ選び、番号を書き、その理由を具体的な自動車の台数を示して書きましょう。

※通過する自動車の台数は、時間に比例するものとします。

- ① 10分ごとの自動車のじゅうたいの列の台数は、多くなる。
- ② 10分ごとの自動車のじゅうたいの列の台数は、変わらない。
- ③ 10分ごとの自動車のじゅうたいの列の台数は、少なくなる。

※これで問題は終わりです。